（書式１２）

氏　　名	てらだ　ゆきこ 寺田　由紀子
学 位 の 種 類	博士（看護学）
学位授与年月日	2022 年 3 月 25 日
学位授与の条件	学位規則第 4 条第 1 項
研 究 科 専 攻	東北大学大学院医学系研究科（博士後期 3 年の課程）保健学専攻
学位論文題目	ケアリング・マスキュリニティ尺度の開発とケアリング・マスキュリニティが身体的健康・精神的健康に及ぼす影響
論文審査委員	主査　教授　吉沢　豊子 教授　塩飽　仁　　教授　佐藤　冨美子

論 文 内 容 要 旨

学籍番号：B8MD2005
氏　　名：寺田　由紀子
本　　文：

【背景】男性の役割期待が変化し、従来は女性役割としてみられがちであったケア実践を男性性に取り入れる必要がある。「ケアリング・マスキュリニティ（Caring　Masculinities)）」(Elliott, 2016) を取り入れることで、男性が自ら積極的にケア役割を担うことに繋がる。そこで、従来の男性性尺度では測定できない新しい男性像を測定する尺度を開発する。また、従来の支配的なジェンダー役割は、浅い人間関係、不健康、短命という形で表れるため、ケアリング・マスキュリニティを取り入れることで、男性の健康促進にも繋がると考えた。そこで、開発した尺度を用いて、新しい男性性が健康に与える影響を調査し、検討することとした。

＜研究 1＞【目的】ケアリング・マスキュリニティ（Elliott,2016）の概念をもとにケアリング・マスキュリニティ尺度を開発する。【方法】 20 – 59 歳の男性 450 名に対する妥当性・内的一貫性検証、別の男性 55 名に対する再テスト信頼性検証を行った。 ケアリング・マスキュリニティを基に尺度案 59 項目を作成した。構成概念妥当性は因子分析を行い、収束妥当性と弁別妥当性を確認した。基準関連妥当性は既存の３つの尺度との相関を確認した。信頼性はクロンバック α、級内相関係数（ICC）を算出した。

【結果】研究 1：探索的因子分析の結果、4 因子 39 項目に収束し「関係性」「肯定的感情」「支配の拒絶」「相互依存」という Elliott（2016）の提唱するケアリング・マスキュリニティと同様の 4 つの要素をもつ尺度となった。収束妥当性（r=.986~.998)、弁別妥当性　(r=-.252~.622）から、尺度化成功率は 100 ％であった。ケアリング・マスキュリニティ尺度は、性役割観の平等志向性（r=.389)、新しい男性役割尺度（r=.467)、存在受容感尺度（r=.357）と有意に相関した。クロンバック α 係数は 尺度全体.871、各因子.843~.944、ICC=.895~.957（n=52）であった。【考察】ＣＭ尺度 の 4 つの構成概念は、Elliott の提唱するケアリング・マスキュリニティで示されている要素と同様となり、信頼性・妥当性が確保された。わが国における新しい男性性を測定する有用な尺度となることが示された。

＜研究 2＞【目的】ケアリング・マスキュリニティが身体的健康・精神的健康に与える影響を明らかにする。【方法】20 – 59 歳の男性 350 名に対する調査を、研究 1 で開発した尺度、身体的健康・精神的健康を測定する質問紙を使用し、実施した。主要変数間の相関関係を確認し。多重比較を行った。従属変数（身体的・精神的健康）に対する影響要因を検討するために単回帰分析（強制投入

法）および重回帰分析を行い、多重共線性が強い変数に関しては、変数選択を行った。【結果】研究協力者 349 名の身体的健康の指標である Health　Practice　Index（HPI）得点は、ケアリング・マスキュリニティ尺度合計得点とは、有意な正の相関が認められた。単回帰分析で有意な関連を示したケアリング・マスキュリニティ尺度合計得点は、重回帰分析でも有意な関連が示され、、下位尺度の支配の拒絶得点が高いと HPI 得点が高いという関連が認められた。精神的健康において K6 合計得点は、ケアリング・マスキュリニティ尺度合計得点、下位尺度の関係性、相互依存と有意な負の相関が認められた。重回帰分析の結果、ケアリング・マスキュリニティ尺度合計得点は、単回帰分析と同様に有意な関連を示し、下位尺度の関係性得点や支配の拒絶得点が高いと K6 得点が低いという関連が認められた。【考察】本研究から、ケアリング・マスキュリニティ尺度合計得点と下位尺度の支配の拒絶は、身体的健康の指標となる HPI の良い影響要因である。また、ケアリング・マスキュリニティ尺度合計得点と下位尺度の関係性、支配の拒絶は、精神的健康の指標となる K6 にも良い影響要因であることが明らかになった。

以上より、ケアリング・マスキュリニティという新しい男性性を持っていることが、身体的健康、精神的健康に良い影響を与える可能性が示唆された。

【所定様式⑬No.1】大学院の課程による者（課程博士）

審　査　結　果　の　要　旨

博士論文題目　ケアリング・マスキュリニティ尺度の開発とケアリング・マスキュリニティが身体的健康・精神的健康に及ぼす影響

所属専攻・分野名　保健学専攻・ウィメンズヘルス・周産期看護学分野

学籍番号　B8　MD　2005　氏名　寺田　由紀子

現代の男性の役割期待が変わり、女性役割とされてきたケア実践を男性も行うことが求められている。ケア実践が男性アイデンティティとして取り入れることの必要性が欧州諸国を中心に謳われることになったことを背景に、2016年Kittyによって「ケアリング・マスキュリニティ、以下CMと略す」が理論化されている。日本においてもケア実践の男性アイデンティティの組み入れの兆しは見えてきており、CM理論を基に、ケアリング・マスキュリニティ尺度を開発したのが第一研究である。尺度は、450名の20歳～59歳の男性を対象にしてＷＥＢで調査を実施し、探索的因子分析の結果「関係性」14項目「相互依存」6項目「肯定的感情」6項目「支配の拒絶」13項目の4因子から構成され、CM理論とほぼ一致するものであった。CM尺度の構成概念妥当性として、収束妥当性（r=0.986-0.998），弁別妥当性(r=-0.252-0.622),基準関連妥当性として平等主義的役割態度スケール短縮版(r=0.389)と新しい男性役割尺度(r=0.467)と、,存在受容感尺度(r=0.357)それぞとの相関の有意性を確認した。さらに既知集団妥当性、併存妥当性についても確認をした。信頼性は、内的整合性をクロンバックのα係数で、0.843～0.944の範囲で、尺度の安定性は再テスト法にて級内相関係数0.859～0.957にて確認した。以上からCM尺度は、CM39項目、ケアを担う責任1項目からなる信頼性、妥当性が確認された尺度となった。第2研究は、男性の健康は、これまでの覇権的男性性に影響を受けているとの指摘があり、それも健康を脅かす方向に影響していることを受けて、新しいCMという男性性を持つことは男性の健康にどのように影響を与えるのかを明確にするために、第一研究で開発したCM尺度を用いて実施した。350名の成人男性に属性、CM尺度、身体的健康としてBreslowのHealth Practice Index :HPI7項目、精神的健康の指標としてＫ6質問票日本版6項目にてWEB調査を行った。分析は重回帰分析を行い、CMはHPI総得点と有意な関連を示していた(β＝0.154,p=0.004)、K6とも有意な関連を示した(β=-0.276,p<0.001)。CMの新しい男性アイデンティティを持つことは、男性の身体的、精神的健康に良好に影響していることが明らかとなった。

本研究は、これから変化が期待される新しい男性のアイデンティティであるCMに着目し、そのCM尺度開発し、さらに男性の健康へのCMの良好な影響を示した斬新で新規性に富む研究である。

よって，本論文は博士（看護学）の学位論文として合格と認める。